

外部委員からの意見及び取組事例

◎経営協議会

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成23年4月27日	・平成22～32年度における損益予測と資金管理計画について	・前回審議された平成27年度までの損益予測及び減価償却予測について、今回、平成32年度まで延ばした経緯について質問があった。	・平成28年度に借入金の返済額が最大となることから、リスク要因として第3期中期目標期間まで視野に入れた予測に修正した。更に、設備投資額を修正のうえ計上した。	H23.4
	・県民アンケート調査の結果を踏まえて	・滋賀医科大学に対するイメージについて、ホームページや広報誌に対する関心が低く、あまり周知されていないとの指摘があった。 ・広報誌の修正箇所への対応や、病院内に設置されている意見箱の内容が反映されていない旨の指摘があった。	・関心が持てる記事等を検討し、今後も本学の特徴である国家試験合格率等はもちろんのこと、文武両道であることもアピールしていく。 ・広報誌の修正箇所については、シールの配付等で対応し、今後は発行前に留意する。 ・病院内に設置されている意見箱の対応については、病院再開発の関係から回答の掲示に不備があったが、今後は以前同様に対応する。	H23.5
平成23年6月15日	・平成22年度決算について	・収益見込みについて、人件費を見込んだ際に労働保険料の計上漏れによる実績額の差異について質問があり、年間の見積もりに対して上半期及び年間の実績ではなく、毎月ベースの実績を確認する等、差異に対して早急に対応できるよう指摘があった。	・年間の見積もりに対して上半期及び年間の実績ではなく、毎月ベースの実績を確認する等差異に対して早急に対応できるよう確認していく。	H23.6
		・損益計算書のセグメント情報では、費用及び収益の病院が占める比率が大きくなっているが、今後もこの傾向が続くのかという意見があった。	・学部等における教育の財源は授業料等によるものであるが、学生の定員は大きく変わる事がなく、一方、病院は再開発等が続くこともあり、今後もその傾向にある。	H23.6
		・業務実施コスト計算書では、国民1人当たりの負担額の表現について、県民1人当たりの表現ができれば、より身近に感じる事となり、広報として効果があるのではとの意見があった。	・広報として、参考にする。	H23.6
	・平成22年度実績報告書について	・教育面において医師、看護師・保健師・助産師の国家試験の結果について、全国1位の合格率であることから、個々の説明においても明確に表現される方がよい旨の助言があった。	・表現を訂正した。	H23.6

外部委員からの意見及び取組事例

◎経営協議会

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成23年6月15日	・コスト構造改革に関する平成22年度の実績報告について	・電子カルテによる請求漏れについて、本来請求漏れをなくすために導入しているものであり、どうして請求漏れが起こるのかという意見があった。	・医師が実施した行為に対して、コメントを入力する等操作の漏れがあることについて説明があった。指導管理料等について、算定率の悪い診療科に対して注意喚起する。	H23.6
	・その他	・震災後の節電について、本学の対応について質問があった。	・蛍光間の間引き、人感センサーの作動停止、ウォシュレット・ハンドソープの一次停止、エレベータの部分停止、遮光フィルムの設置場所検討等、節電を進めている旨の説明があった。	H23.6
平成23年7月27日	・平成23年度財務状況等について（第1四半期）	・教育関係と病院とは会計の性質が異なり、官庁会計に近い大学部門と企業会計に近い病院部門があり、病院では収入が増えコストが低くなった場合においても、負の面がすぐに反映されないこともあり、収支を時系列的に見て原因を分析する必要がある旨の意見があった。	・病院部門では、特に収支を時系列的に見て原因を分析する。	H23.7
	・滋賀医科大学評価指標について	・大学評価指標をホームページ等で公開してはどうかとの意見があった。 ・また、目標値を前年度以上としているものがあり、外部資金等において、必ずしも前年度比較とせず全国平均と比較するといったこともあるのではないかとこの意見があった。	・大学評価指標については、ホームページに公開した。 ・目標値の比較については、各大学等で公表された情報に基づき、比較可能な範囲で行う。	H23.7
平成23年11月2日	・平成23年度資金運用の実施について	・計画としては良いが、昨今の情勢から、円建ての外国債券については、格付の変化に十分注意を払うよう意見があった。	・外国債券については、本学の規定上では購入することが可能となっているが、現時点で購入を想定していない。	H23.11
	・滋賀医科大学評価指標について	・在学生の学生支援満足度における未回答者について回収率のアップを図るよう意見があった。	・H24.3.13教育方法改善部門会議において、アンケートに注記を付すこと、学生への説明を十分に行うことを決定し、平成24年度の調査から対応することにした。	H23.3
		・「前年度以上」となっている目標値については、可能な限り数値化するよう意見があった。 (目標項目数 H23年度分8件、中期目標分4件)	・対象となる目標値を確認のうえ、プレスリリースについて年度目標を数値化(30件)した。 (目標項目数 H23年度分7件、中期目標分4件)	H23.11

外部委員からの意見及び取組事例

◎経営協議会

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成24年2月1日	・平成23年度資金管理計画（資金繰表）について	・各月において資金に余裕があり、定期預金等の運用により財務収益の向上に努められてはいかかとの意見があった。	・資金繰表の収支は各月末残高を記しているが、月中においては、給与支払等により資金残高に変動があるため、月中における資金の最低残高も併せて記すこととした。（H24. 4. 25経営協議会より）	H24.2
	・平成24年度予算編成の基本方針について	・平成23年度とほぼ同じ表現であり、特に基本的な考え方の箇所について、例えば東日本大震災に伴う防災機能の強化、コンプライアンス強化などといった1年の情勢の変化を踏まえた大学の姿勢を表現されてはどうかとの意見があった。	・役員会等において再度議論のうえ表現を改め、H24. 3. 28経営協議会において報告した。	H24.2
	・その他	・先進的な医療にかかる教育は勿論重要であるが、地味ながら長期的な視点に基づいた教養教育が必要ではないかとの意見があった。	・患者とのコミュニケーションを図るべく早期体験学習や人間科学研究などの講義を行い、リベラルアーツ教育を実施している。	H24.2
		・不祥事発生後に対する危機管理についても検討されるよう意見があった。	・コンプライアンス研修をするなど計画を作成中である。	H24.2
平成24年3月28日	・平成24年度年度計画について	・国際化について、予算的な面もあるが、外国人研究者を数日ではなく、半年等、ある程度まとまった期間招へいし、セミナーの開催や共同研究等をじっくり進めれば、国際交流が図れるのではないかとの意見があった。	・平成24年度 年度計画（中期No. 31 年度No. 77）に反映した。 「外国人研究者を一定期間受け入れ、セミナーや共同研究等を展開し、協定校との交流を活性化する。」	H24.3
		・新たに取り組む事項について、印なりカラー文字等で分かりやすくされたい、また、計画の要点についても分かりやすくされたい旨意見があった。	・平成25年度計画作成時に検討する。	H24.3
	・その他	・授業評価実施報告について、教養教育については学生から完璧との意見がある一方、教員の遅刻、学生の居眠りといった記載事項について気に掛かる旨意見があった。	・特に教員に対する指導を徹底していく。	H24.3